

あきたからの米レター

令和4年産

水稻の作柄は「やや不良」の見込み 地帯別作柄の良否は県北・中央「不良」、県南「やや不良」

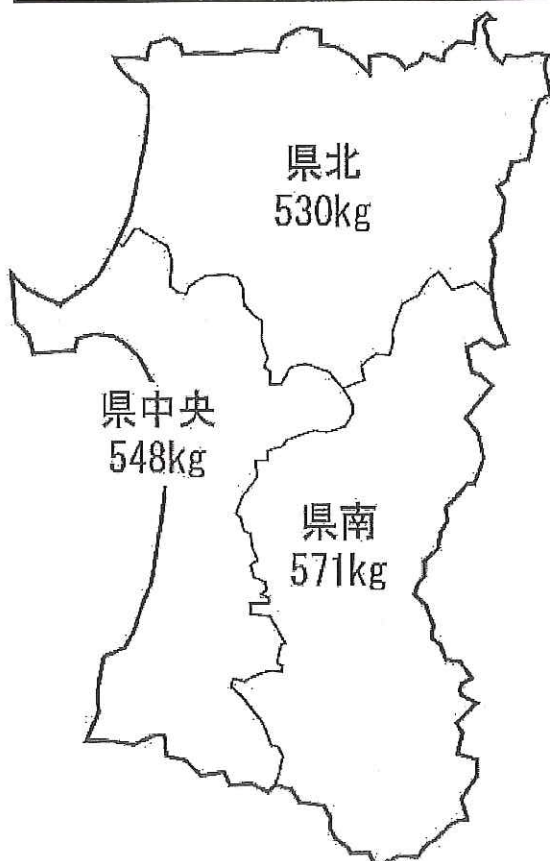
秋田県の10a当たり予想収量は554kg

令和4年10月25日現在
農林水産省東北農政局

東北農政局秋田県拠点、10月25日現在における秋田県の水稲の作柄は「やや不良」が見込まれると発表した。これは、全籾数(穂数×1穂籾数)が平年に比べ「やや少ない」となり、登熟(開花～成熟までの子実の肥大、充実)は出穂以降の大雨や日照不足による倒伏の拡大等により「やや不良」が見込まれ、10a当たり予想収量は554kgであるとしている。

作柄表示地帯別作柄概況 (10月25日現在)

秋田県地帯別作柄の良否



東北6県の地帯別作柄の良否

区分	作柄の良否(作況指数)
平年並み	(101～99)
やや不良	(98～95)
不良	(94以下)

青森
99
(1.90mm)

秋田
95
(1.90mm)

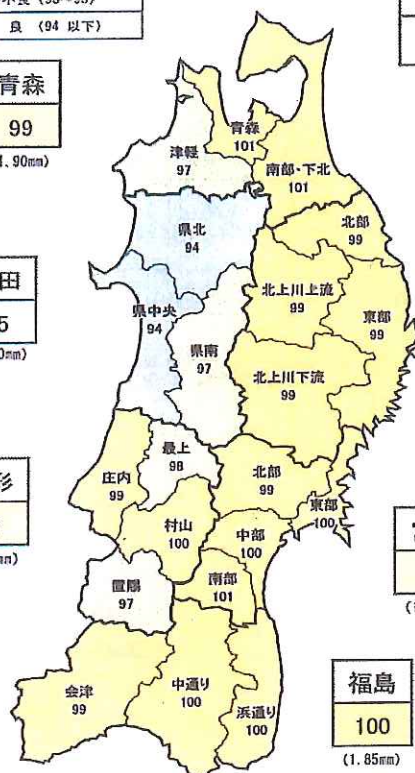
山形
99
(1.90mm)

東北
98

岩手
99
(1.90mm)

宮城
100
(1.90mm)

福島
100
(1.85mm)



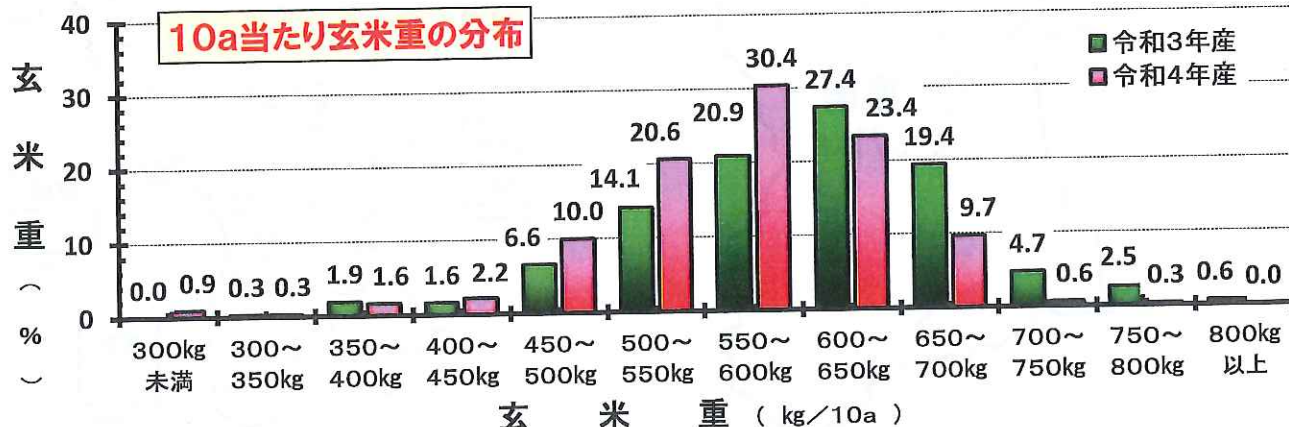
令和4年産水稻 10a当たり予想収量及び作柄概況

区 分	10a当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			作 柄 概 況 (平年比較)			
		10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	穂数の多少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の良否
	kg	kg	kg					
秋 田	554	517	543	95	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや不良
県 北	530	493	526	94	少ない	多い	平年並み	やや不良
県 中 央	548	505	540	94	少ない	やや多い	やや少ない	やや不良
県 南	571	537	555	97	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み

注: 1. ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量。
 2. ②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数は、過去5か年間(平成27年産から令和元年産)に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において最も大きい割合の目幅(秋田県は1.90mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値。
 3. 作柄概況(平年比較)に用いた表示区分は、「多い(良)」が106%以上、「やや多い(やや良)」が102~105%、「平年並み」が99~101%、「やや少ない(やや不良)」が95~98%、「少ない(不良)」が94%以下に相当。

玄米のふるい目別 10a当たり収量及び重量の分布状況

区 分	収量	2.00mm以上		1.90mm以上		1.85mm以上		1.80mm以上		1.70mm以上	
		収量 (kg)	比率 (%)	収量 (kg)	比率 (%)	収量 (kg)	比率 (%)	収量 (kg)	比率 (%)	収量 (kg)	比率 (%)
全 県	554	435	78.5	517	14.8	532	2.8	541	1.6	554	0.9
県 北	530	417	78.7	493	14.4	508	2.8	517	1.7	530	0.9
中 央	548	410	74.9	505	17.3	524	3.4	534	1.9	548	0.9
県 南	571	464	81.2	537	12.9	551	2.4	559	1.4	571	0.8



— 秋田県の1等米比率92.6% —

東北農政局秋田県拠点令和4年9月30日現在

東北農政局秋田県拠点は、9月30日現在の令和4年産うるち玄米の等級別比率を発表した。秋田県の1等米比率は92.6%で前年同時期の92.5%とほぼ同じであった。銘柄別の1等米比率は、あきたこまち93.0%、めんこいな80.9%、ひとめぼれ97.3%、ゆめおぼこ89.1%、今年から本格的に作付けされたサキホコレは、検査数量25トンと少ないものの全量1等米であった。東北の1等米比率は本県より2.1ポイント高い94.7%、全国では75.8%であった。

令和4年産米の検査状況 (うるち玄米)

東北農政局秋田県拠点 令和4年9月30日現在

		等級別比率(%)			
		1等	2等	3等	規格外
県平均		92.6	6.6	0.4	0.3
品 種	あきたこまち	93.0	6.3	0.3	0.4
	めんこいな	80.9	17.0	2.1	—
	ひとめぼれ	97.3	2.7	—	—
	ゆめおぼこ	89.1	10.9	—	—
	サキホコレ	100.0	—	—	—
参 考	東 北	94.7	4.9	0.3	0.1
	全 国	75.8	21.5	2.0	0.7



検査:JAあきた北9月23日

登熟中・後期、大雨・極度の日照不足

登熟緩慢、充実度不足と青未熟粒目立つ、胴割れ粒懸念

— 稲刈りの始期(5%)・盛期(50%)は平年並み、終期(95%)は6日遅れ —

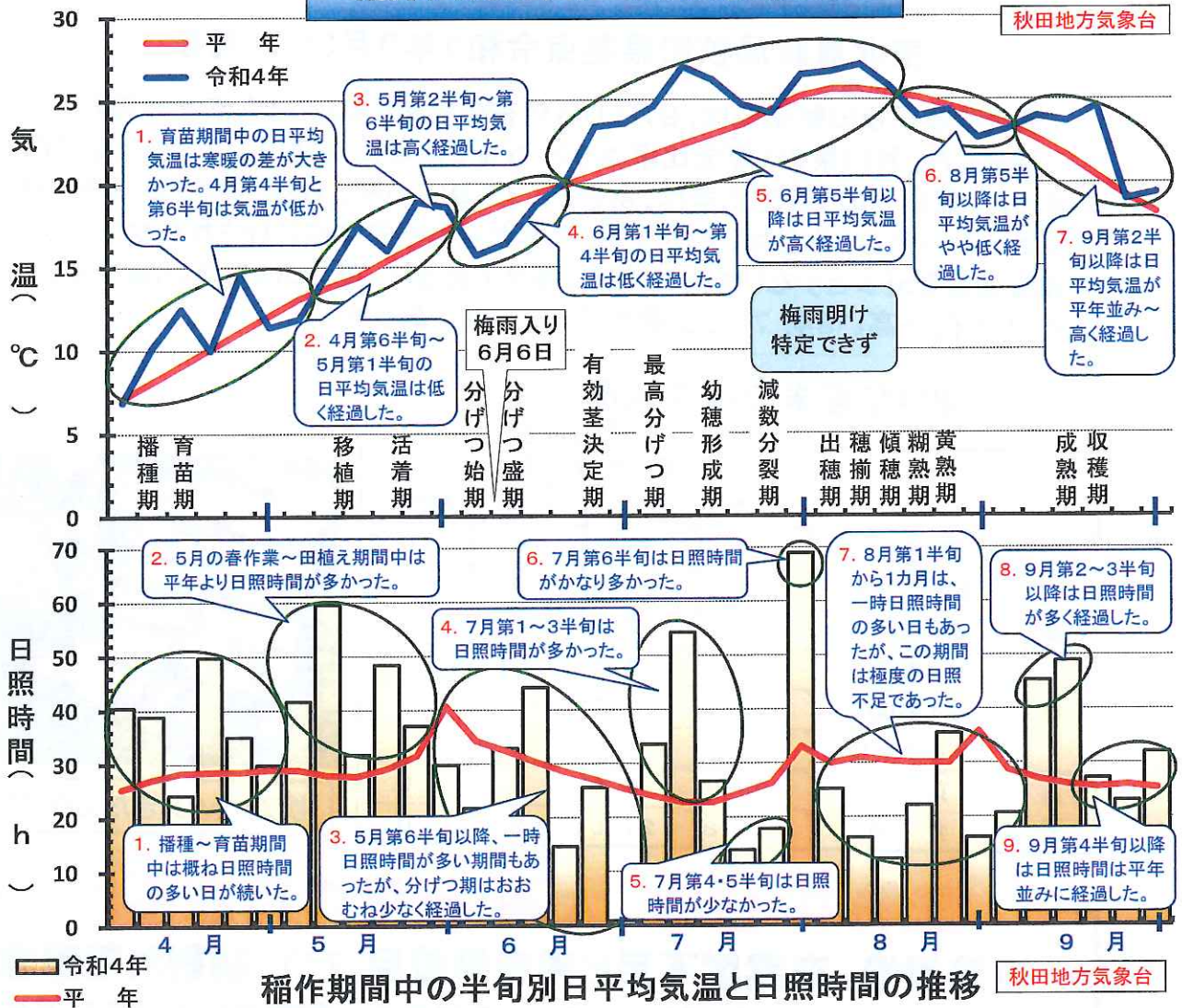
刈り取りの進捗状況

秋田県農林水産部水田総合利用課

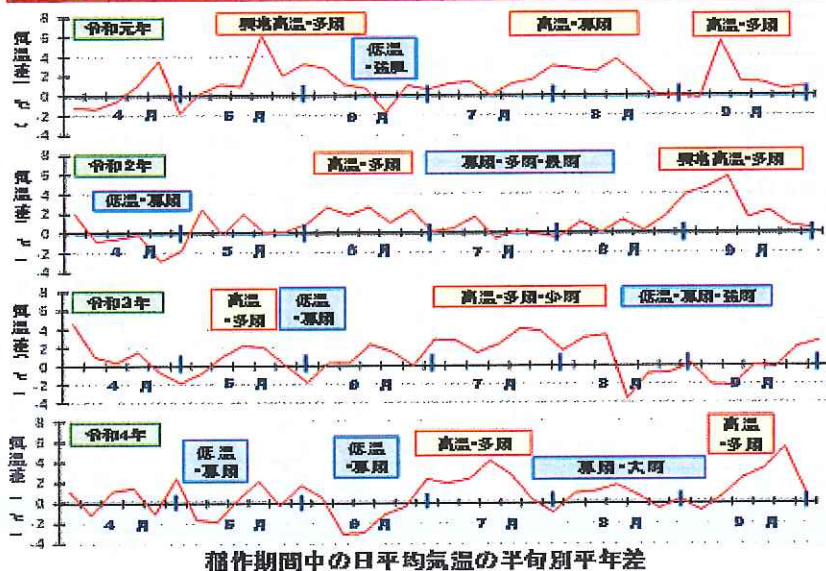
地域 振興局	作付け 面積(ha)	始期(5%)		盛期(50%)		10月15日(%)※		終期(95%)	
		本年	平年差	本年	平年差	本年	平年	本年	平年差
鹿角	2,186	9月27日	0	10月9日	0	72.7	79.1	10月23日	1
北秋田	6,875	9月21日	-1	10月2日	1	85.1	96.4	10月22日	8
山本	8,766	9月22日	2	10月2日	2	94.4	97.4	10月16日	5
県北	17,827	9月21日	-1	10月2日	1	88.2	94.8	10月20日	4
秋田	22,465	9月18日	-1	9月30日	2	88.5	97.8	10月21日	9
由利	8,170	9月21日	-1	10月2日	1	90.2	96.8	10月18日	4
中央	30,635	9月20日	0	10月1日	1	88.9	97.5	10月19日	6
仙北	19,340	9月21日	1	9月30日	1	95.0	98.1	10月15日	5
平鹿	11,100	9月25日	2	10月3日	2	96.8	98.0	10月13日	2
雄勝	5,867	9月19日	-4	9月30日	-2	97.2	95.8	10月13日	2
県南	36,307	9月21日	0	10月1日	0	95.9	97.7	10月15日	4
全県	84,769	9月20日	-1	10月1日	0	91.8	97.0	10月19日	6

※: 10月25日の刈り取り面積(刈り取り面積/作付面積×100)

稲作期間中の気象経過



令和に入ってから温暖化とともに気象変動が大きくなった



生育概況

1. 育苗期(4月)

4月の日平均気温(10.1℃)は平年より0.5℃高く、日照時間(平年比123%)はかなり多かった。播種作業の盛期(50%)は4月22日で平年並となった。また、耕起などの春作業も順調に進み平年(5月3日)より1日早かった。

苗の生育は、苗丈がやや短く(平年比86%)、葉数は平年より進み(平年差+0.3葉)、乾物重(平年比117%)が重く、充実度(同133%)は平年を上回った。(作況ニュース第2号)

2. 移植期(5月)

5月は、日平均気温(15.4℃)が平年に比べ+0.2℃で平年並みであったが、5月下旬の日平均気温は平年より1.1℃低かった。また、5月の日照時間は平年の84%で少なく、降水量は平年の171%とかなり多かった。

全県の田植え盛期(50%)は5月22日、終期(95%)は5月30日で平年並みとなった。5月下旬は前線と低気圧の影響により低温が続き、一時田植えを見合わせた期間があった。この時期に田植えを行った沿岸部の一部地域で代枯れや活着不況がみられた。(作況ニュース第3号)

3. 分けつ期(6月)

6月の日平均気温(20.8℃)は平年に比べ+1.2℃高く、日照時間243.2hは平年に比べてかなり多く、降水量は平年(76.0mm)より少なかった。「梅雨入り」は平年並みの6月6日となった。

分けつ始期(6月10日)の生育は、6月上旬の低温と日照不足の影響により、草丈は25.5cm(平年比101%)、 m^2 当たり茎数は115本(同74%)と極端に少なく、葉齢は5.9葉(平年差-0.2葉)であった。(作況ニュース第3号)

有効茎決定期(6月25日)の生育は、草丈は37.6cm(平年比103%)、 m^2 当たり茎数は388本(同94%)、葉齢8.9葉(平年差+0.3葉)で遅れていた生育は回復しつつあった。しかし、5月下旬に田植えを行った一部の地域では生育の遅れが目立った。(作況ニュース第4号)

4. 最高分けつ期～減数分裂期(7月)

7月の日平均気温(26.0℃)は平年に比べかなり高く(+2.6℃)推移した。日照時間(259.4h)は平年の173%でかなり多く、降水量は平年(平年比127%)より多かった。

最高分けつ期(7月5日)の生育は、草丈が51.5cm(平年比104%)、 m^2 当たり茎数548本(同101%)、葉緑素計値43.9(同99%)、葉齢10.3(平年差+0.3葉)であった。

幼穂形成期(7月15日)の生育は、草丈が66.3cm(平年比106%)、 m^2 当たり茎数532本(同99%)、葉緑素計値41.7(同99%)、葉齢11.4(平年差+0.4葉)であった。

減数分裂期(7月26日)の生育は、草丈が82.4cm(平年比112%)、 m^2 当たり茎数482本(同97%)、葉緑素計値37.8(同98%)、葉齢12.7(平年差+0.5葉)であった。

最高分けつ期から減数分裂期にかけて高温・多照で経過し、適度な降水に恵まれた。溝掘りや中干しによる水管理が徹底されたが、草丈が急速に伸びたことから穂肥と実肥の追肥を控え

たほ場が多かった。こうした高温・多照により斑点米カメムシ類の生息密度が高まり、防除の徹底と草刈りの実施を呼びかけた。(作況ニュース第6号)

5. 出穂期(8月上旬)

6月下旬から8月上旬まで続いた高温・多照は、生育を早め、「あきたこまち」が誕生して以来、過去に経験したことのない早さで出穂期(8月1日)を迎えた。(作況ニュース特号)

東北農政局秋田県拠点が発表した作柄概況でも、出穂最盛期(50%)は8月1日で平年より4日早まった。

6. 登熟期(8月中旬～)

8月の日平均気温(25.5℃)はほぼ平年並み(平年比+0.5℃)に推移した。日照時間(158.9h)は平年比85%と少なく、降水量(172.5mm)は平年比93%で平年並みであった。登熟中・後期の日平均気温は平年並みに推移したが、日照時間が極端に少なく、登熟歩合と粗玄米千粒重が一時鈍化した。

8月20日の生育は、 m^2 当たり穂数は452本(平年比102%)、1穂当たり着粒数は74.7粒(同102%)、 m^2 当たり総粒数は33.6千粒(同103%)であった。(作況ニュース第7号)

7. 病害虫の発生

病害虫防除所が8月上旬に調査した結果では、穂いもちの発病株率と発病地点率は平年並みであったが、県南部ではやや多かった。また、斑点米カメムシ類は6月中旬から8月上旬まで高温・多照で経過したことから、水田内のすくい取りの発生地点率は平年に比較していずれも多かった。

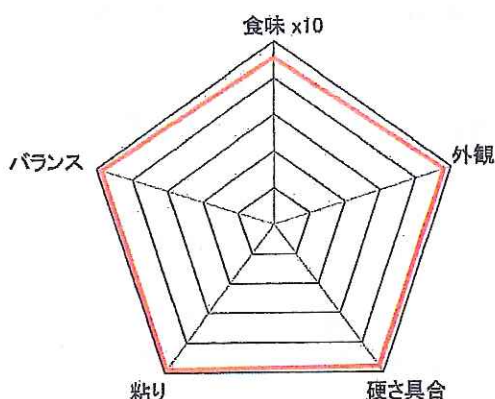
8. まとめ

今年の気象は、播種から刈り取りまで気象変動が非常に大きかった。6月上・中旬の低温と日照不足、6月下旬～8月上旬までの高温・多照、8月中旬～9月上旬の大雨と極度の日照不足など、観測史上記録的な気象で経過した。こうした天候にもかかわらず、生産者の弛まない水管理により、9月25日の作柄は「やや不良」にとどまった。集荷された玄米の品質は良好、炊き上がりは適度な「粘り」があって「うま味」が凝縮され、自信を持って消費者にお届けできるおコメに仕上がっている。

サマケ 炊飯食味計 分析結果【出荷製品】

整理No. 00027981

日付 2022年09月28日(水)



STA	
外観	9.6
硬さ	4.8
粘り	9.8
バランス	9.7
食味	91

年産	4
産地	秋田
品種	あきたこまち
水分	13.9 %
白度	46.9 %
精米日	9.26
備考	調査品



10a当たり平均収量541kg、平年比93%

穂数少なく、1穂穂数多く、m²当たり穂数やや少ない

6月上・中旬の低温・寡照と8月の大雨・極度の日照不足が影響

地域振興局農林部農業振興普及課定点調査

各地域振興局農林部農業振興普及課定点ほ場の収量調査の結果では、全県平均でみると、収量は541kg(平年比93%)、全重は1,433kg(同97%)、精粳重は725kg(同95%)、登熟歩合は82.7%(平年差-3.7)、千粒重22.8g(平年比101%)となっている。

収量を左右した要因は精粳重の減少によるもので、これは穂数が極端に少なく(平年比88%)、総穂数の減少が反映したものと推察される。8月中・下旬は大雨と極度の日照不足により、登熟が緩慢に推移し、刈り取りを控えた地域が多かった。このことから充実度不足や青未熟粒が多く見られたことと、刈遅れによる胴割れ粒が発生した。

農業振興普及課定点調査結果

(令和4年10月25日調査、品種:あきたこまち)

農 業 振 興 普 及 課	調査 点数	全 重		ワ ラ 重		精 粳 重		玄 米 重		登 熟 歩 合		千 粒 重	
		(kg/10a)	平年比	(kg/10a)	平年比	(kg/10a)	平年比	(kg/10a)	平年比	(%)	平年差	(g)	平年比
鹿 角	5	1,362	87	622	85	727	93	564	96	88.4	0.7	22.9	102
北秋田	9	1,401	94	699	98	685	90	526	88	85.6	-2.2	22.3	99
山 本	9	1,434	97	657	96	763	98	549	93	80.7	-5.7	22.9	102
県 北	23	1,406	94	666	94	724	94	543	92	84.3	-2.3	22.7	101
秋 田	10	1,480	101	729	107	724	98	533	95	80.6	-6.8	22.8	102
由 利	2	1,565	113	753	121	795	107	579	105	84.3	-2.7	22.2	98
中 央	12	1,494	103	733	109	736	100	540	96	81.3	-6.0	22.7	102
仙 北	10	1,328	90	619	90	667	88	491	83	77.8	-7.9	23.2	102
平 鹿	11	1,472	102	734	115	732	96	559	98	86.0	0.1	22.8	102
雄 勝	8	1,494	104	690	112	773	101	573	99	82.1	-4.1	22.8	102
県 南	29	1,428	98	682	105	721	95	540	93	82.1	-3.8	22.9	102
全 県	64	1,433	97	686	102	725	95	541	93	82.7	-3.7	22.8	101

有効茎歩合高いが穂数少ない

1穂穂数やや多く、総穂数やや少なく、登熟歩合低下

地域振興局農林部農業振興普及課定点調査

各地域振興局農林部農業振興普及課の定点ほ場における成熟期(9月15日)の調査結果では、全県平均でみると、稈長は85.1cm(平年比105%)、穂長は18.2cm(同104%)、穂数は399本/m²(同88%)、1穂穂数は77.6粒(同111%)、総穂数30.9千粒/m²(同98%)となっている。総穂数が少ないのは、6月上・中旬の低温・寡照により、目標の茎数が確保されなかったことにより穂数不足が大きな要因である。6月下旬～7月は高温・多照で確保されなかったことにより穂数不足が大きくなったが総穂数は平年経過し、溝掘り・中干しが行えたことにより、1穂穂数の増加になったが総穂数は平年を下回った。出穂は平年より1日早い8月1日、出穂前後は高温・多照に恵まれ初期登熟は順調に推移した。しかし、8月中・下旬の大雨と極度の日照不足により、登熟が緩慢になり登熟歩合は低下したが、千粒重はほぼ平年並みであった。

農業振興普及課定点調査結果

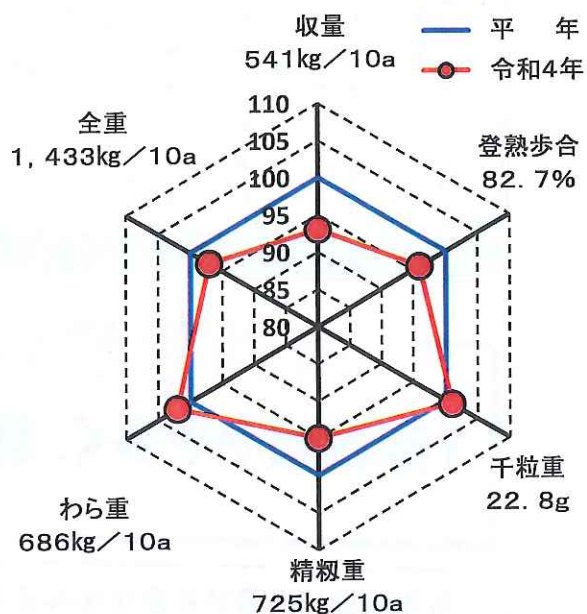
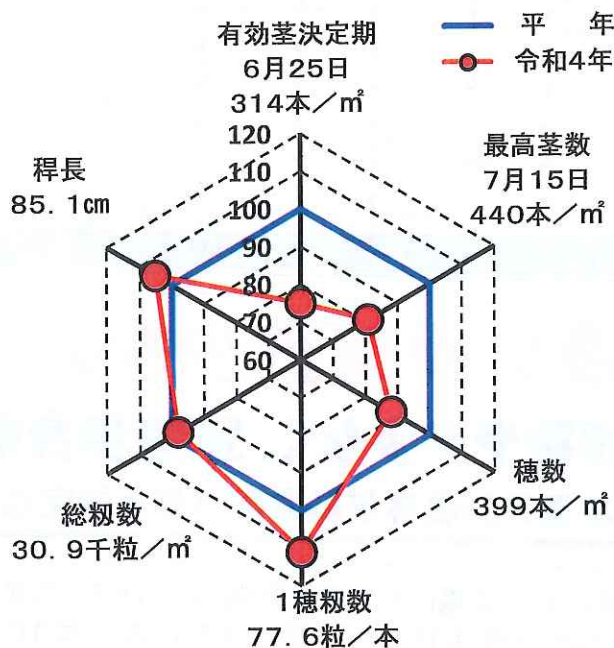
(令和4年9月15日調査、品種:あきたこまち)

農業振興普及課	調査点数	成熟期		稈長(cm)		穂長(cm)		穂数		1穂当たり粒数		㎡当たり総粒数	
		本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比
		月・日	日	(cm)	(%)	(cm)	(%)	(本/㎡)	(%)	(粒)	(%)	(千粒)	(%)
鹿角	5	9.18	0	79.1	101	16.7	99	416	86	69.2	105	28.6	90
北秋田	9	9.17	3	81.5	101	18.0	104	401	86	74.0	109	29.6	93
山本	9	9.20	4	83.2	104	18.5	105	380	84	81.9	116	30.9	97
県北	23	9.18	2	81.6	102	17.9	103	396	85	76.1	111	29.9	94
秋田	10	9.16	2	83.9	103	18.4	103	384	88	82.8	114	31.7	101
由利	2	9.24	5	85.1	108	18.6	106	380	87	81.1	119	30.6	104
中央	12	9.17	3	84.1	104	18.4	103	383	88	82.5	115	31.5	101
仙北	10	9.20	6	85.6	106	18.3	104	391	87	75.7	110	29.5	96
平鹿	11	9.21	4	92.3	111	18.2	102	409	91	78.1	108	31.9	99
雄勝	8	9.17	0	86.3	107	18.5	106	429	96	76.8	111	32.9	107
県南	29	9.20	4	88.3	108	18.3	104	408	81	76.9	109	31.4	100
全県	64	9.19	3	85.1	105	18.2	104	399	88	77.6	111	30.9	98

初期莖数不足が致命的な要因

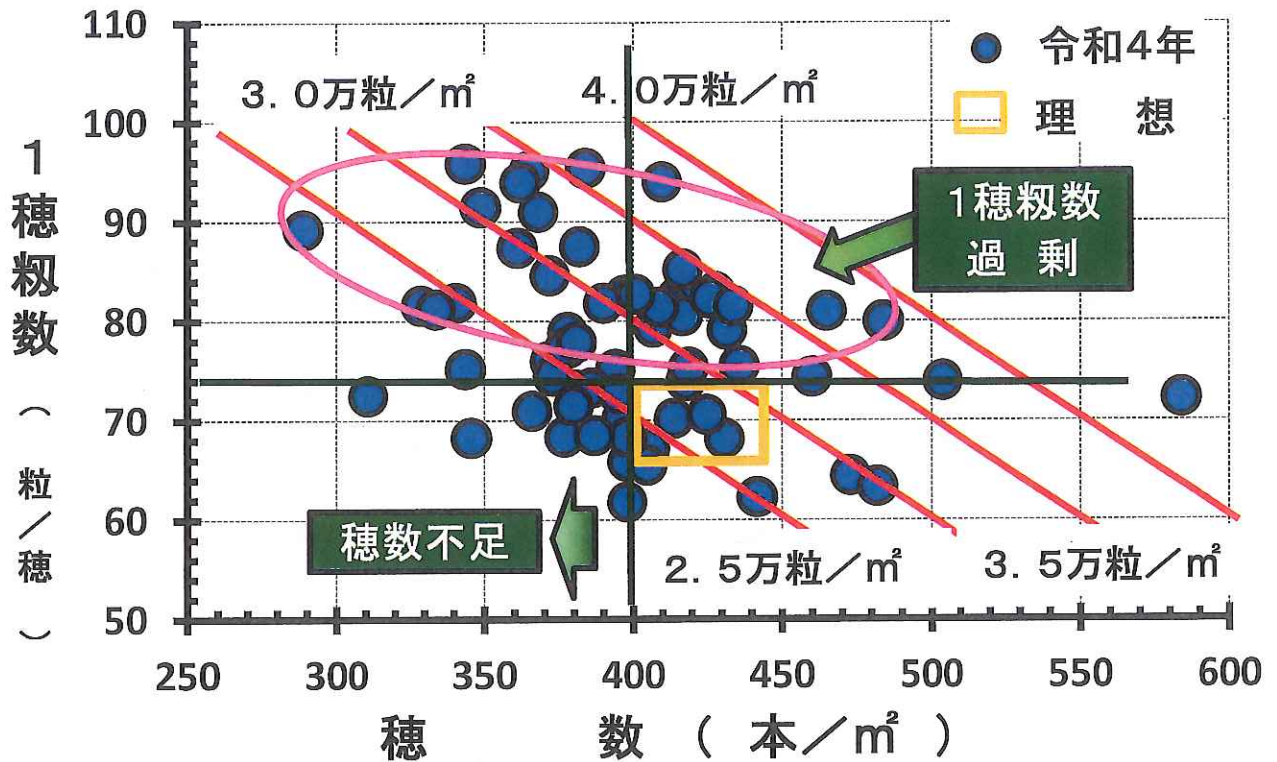
生育遅延型冷害の様相、稲づくりの基本技術再確認

地域振興局農林部農業振興普及課定点調査

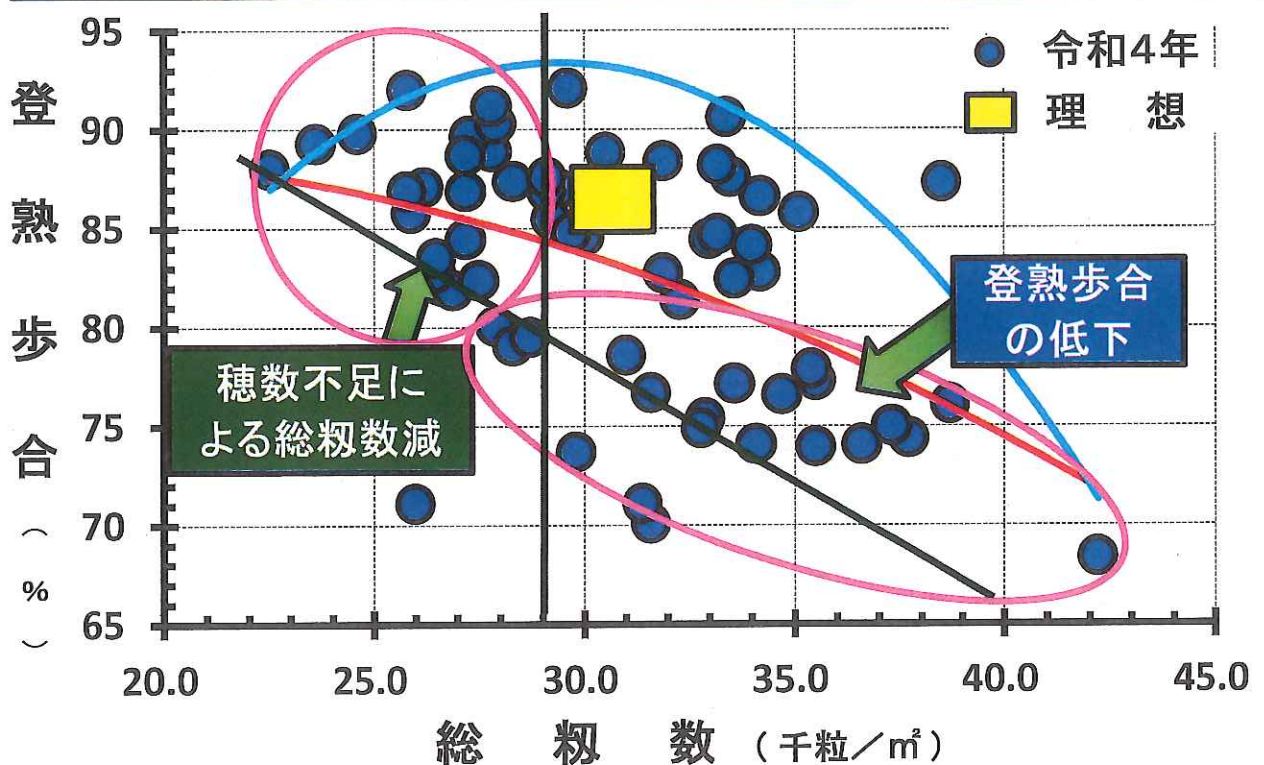


穂数と1穂粒数の関係

● 穂数不足を1穂粒数でカバーするも総粒数やや少ない



● 低収の要因: 穂数減による総粒数不足と登熟歩合の低下



第145回秋田県種苗交換会



第145回秋田県種苗交換会が10月29日から11月4日までの7日間、大仙市で開催された。「大輪の如く大仙に轟け大地の祈り」をキャッチフレーズに、大仙市大曲体育館を主会場として行われた。ウィズコロナ時代に突入して3年、県内主要イベントの復活を追い風として、今回の種苗交換会は感染防止対策を万全に整えて、コロナ禍前と同水準での開催となった。主会場の農産物の出品財は、今年の低温・大雨・極度の日照不足をものともしない生産者の弛まない努力により、優品が並び来場者は熱心に見ていた。協賛第2会場の「大曲の花火」公園では3年ぶりに農業機械化ショーが復活し、連日多くの来場者で賑わった。また、同日29日には県の新品種「サキホコレ」の本格デビューを東京と秋田をオンラインでつないで実施し、おにぎりが振る舞われた。

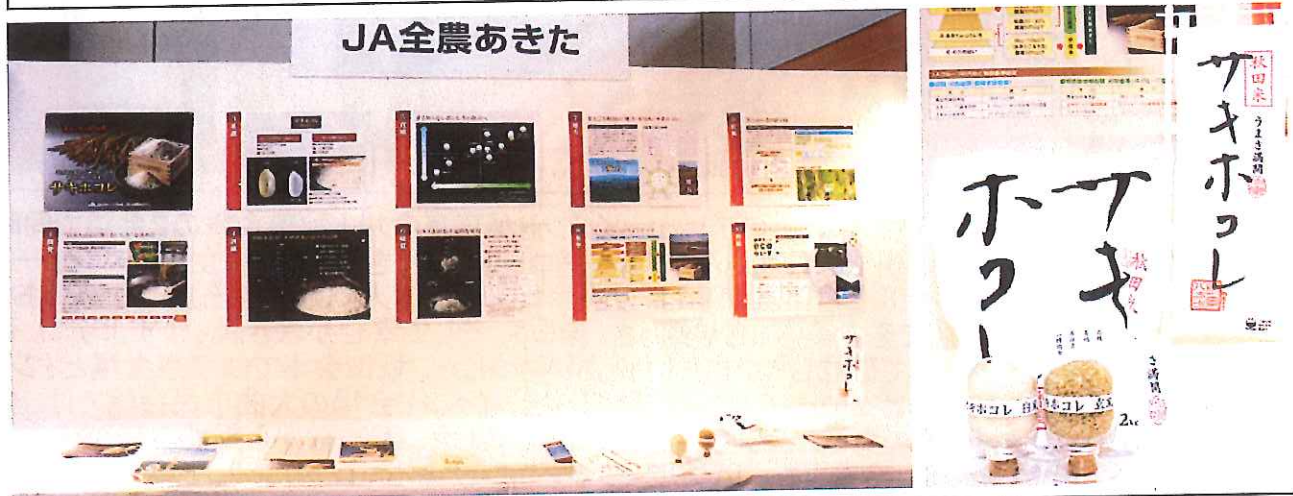


第1部水稻では38点中21点が地元仙北から出展された。本年の稲作は、6月上・中旬の低温や日照不足により茎数が少なく推移した。今年は大雨と極度の日照不足により、登熟不良が懸念された。しかしながら、出品物は茎葉や穂のボリューム感に優れ、粳の充実が良いものが多く、きめ細かな栽培管理により厳しい気象条件を克服した生産者の高い技術と努力の跡が伺われた。本格デビューした「サキホコレ」が出展され、品種特性が良く表現され、根や茎が健全で粳の熟色が良く、栽培管理技術の高さが評価されていた。

秋田米最上位品種「サキホコレ」コーナー



秋田県の次代を担う品種「サキホコレ」を紹介するコーナーを県農林水産部水田総合利用課秋田米ブランド推進室とJA全農あきた米穀部が設置した。コロナ禍で試食は出来なかったが、生産者や消費者の関心が非常に高いことが伺われた。



地間競争が激化する中、コメどころ秋田の存在感を示すブランド米として、生産者をはじめとするJAグループや県関係機関と一体となった取り組みを推進することになっている。



美人を育む秋田米



秋田米の最上位品種

「サキホコレ」デビューイベント

令和4年10月29日



秋田米新品種「サキホコレ」のデビューイベントが東京会場と秋田会場の2会場で同時に開催された。東京会場では壇蜜さんが「サキホコレ」でおにぎりを作り試食するパフォーマンスを行いPRした。秋田県猿田副知事は「サキホコレは日本人が好む本格派で王道のお米。食卓・職場・飲食店でその美味しさや嬉しさ、楽しさ、そして幸せが咲き誇りますように。そして、トップブランドとして確立していきたい」とあいさつした。秋田会場では東京会場とオンラインでつなぎパブリックビューイングで同時開催した。イベント会場の大曲市民会館では、先着300人にサキホコレでつくったおにぎりを無料で配布した。配布前から長蛇の列が出来るほどの大盛況であった。今後とも、JAグループ秋田は「サキホコレ」のブランド構築と、秋田米のフラッグシップとなるよう、県行政や関係先と連携し取り進めることとしている。



東京と秋田をオンラインで同時開催

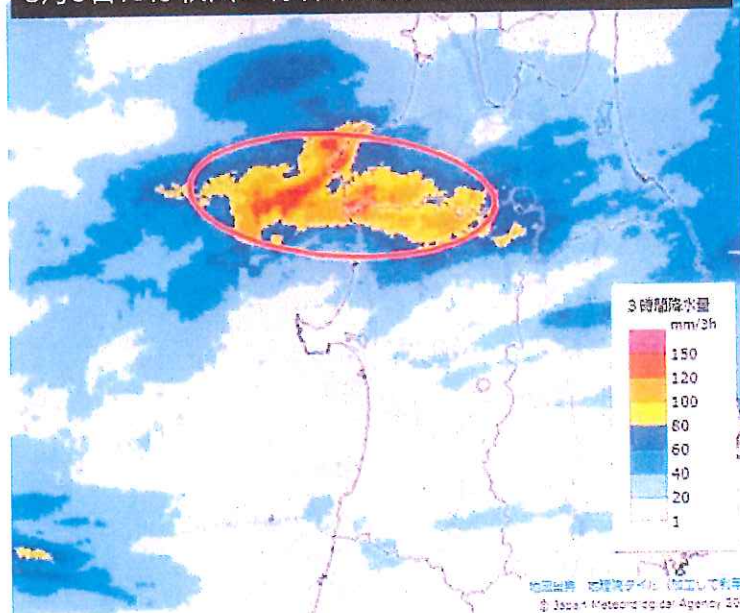
「非常に激しい雨」過去最多 1時間降水量50^ミ以上、今夏9回観測

県内大雨のメカニズムのイメージ



※秋田地方気象台への取材による

8月3日には秋田、青森県境付近に線状降水帯が発生



第145回秋田県種苗交換会が10月29日から11月4日まで大仙市で開催された。昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、農産物の出品数はコロナ前より約2,000点から1,300点に減らして行われた。「歴史の火を絶やすことなくつなげたい」と関係者の強い思いで実現した。

今年は4月の播種から9月の刈り取りまで、気象変動が非常に大きかった。6月上・中旬には低温と日照不足により初期莖数が確保されなかった。6月下旬から8月上旬までは高温・多照で経過し、溝掘りや中干し十分に実施されたが、莖数不足は免れなかった。8月中旬からは、一転して大雨と極度の日照不足により登熟が緩慢になった。あきたこまちが作付けされてから38年になるが、これまでに経験したことのない生育を辿った。9月に入って天候は回復したが刈り取りの終期は大幅に遅れた。

東北農政局が10月25日現在の作柄状況を発表した。本県の作柄は10a当たり収量が554kg、作況指数95の「やや不良」であった。地帯別作況指数は県北と県中央は94の「不良」、県南は97の「やや不良」であった。また、東北農政局秋田県拠点が発表した9月末日現在の1等米比率は92.6%で昨年同時期とほぼ同じ(+0.1ポイント)であった。

種苗交換会に訪れた生産者は、今年は収量が1俵～1.5俵少なかったと話していたが、中には、平年作であったとの声も聞こえた。こうした天候にもかかわらず、生産者の高い生産技術力と弛まない努力により、1等米比率92.6%を確保できたことは大変喜ばしいことである。炊飯したご飯は「粘り」があって「うま味」が凝縮されており、自信を持って消費者にお届けできる米に仕上がっていた。

こだま

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558
秋田市八橋南2-10-16
URL:<https://www.zennoh.or.jp/ak/>

次回の発行は12月20日頃

資料の使用に当たっては米穀部の許可を得る

JA全農あきた米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷295-53
TEL:018-845-8500
FAX:018-880-1572

